

Catch the eye 2015年1月

2015/1/2
(金)

厳寒の幕明け

年が明けた。2015年に入った。予報どおり厳しい寒さの元旦、大阪市内は晴れていた。まずは弟妹たちと墓参り。墓地には新しい墓花がそこかしこに飾られていた。新年の静かな儀式を終えて、祝いの宴へ。

寒さは厳しいけど、まずは穏かに幕明けした2015年。



2015/1/4
(日)

大阪城公園梅林



2015/1/6
(火)

小寒

今日は朝から雨。空気が乾燥していたので歓迎、ただし、また寒くなるらしい。4日に訪ねた大阪城公園の梅林。『冬至』もまだ咲いていなかったし、『蠟梅』もおそい。

「今年は遅いですね」を左手の方から男性が近づいてくる。一人でまじまじを蠟梅の木を眺め、写真を撮っていたのだった。視線の端に、アマチュアカメラマンらしき男性がこちらを見ているのには気づいていた。

花はまだまだ先の閑散とした梅林。地元の人が散歩コースにしているぐらいで、ほとんど人はいない。声をかけられては面倒だなあと感じていた。そこへ案の定、近づいてきて話しかける。

さて、こういう時どうするか。知らん顔しては大人気ないし、かといって真正面にうけとめると、話が長くなる。そこで、相手には視線を向けず、蠟梅を見納めするように後ずさりし、相手を横切りながら、

『ほんとに、そうですねえ、おそいですねえ〜』と返し、その場を離れた。相手の立場になると、取り残されたような気分になったかもしれない。それでも自分ではスマートにかわしたと悦に入るのだった。

2015/1/8
(木)

書くこと

今朝は雲が多かった。少し陽も差し込んだ。でも今日は曇りがちのよう。連休にかけてまた厳しい寒さらしい。寒くても、歩くにはいい。以前ほど歩いていないのを反省して、なるべく歩くことにした。正月二日、少し長い距離を歩いたら足がつかない感じになった。これにはさすがにびっくり。なにごとくも、継続は力なり。

書くことも人にはともかく、自分には力になっている。久しぶりに『モンテニユ 初代エッセイストの問いかけ』（荒木昭太郎 中公新書）を開くことがあり、モンテニユと著者に、『続けたまえ』と励まされた感じがした、ふたたび。以前にもまして、『エッセー』のすごさをひしひしと感じる。時空間を超えて、いまの時代と人間を語っているよう。『エッセー』の真価。

“いい文章だなあ”。6日の日経夕刊の「あすへの話題」。元検事総長が書いた「最後の投げ所」。今の時代を物語る埋もれた一面。書いたことは書き手から自立して独自の生きものになると誰かが言っていた。たしかにそう。だから書くことが力になり得る、まずは自分にとって。ちなみに堀田善衛は『エッセー』を『（人間を見直す）試み』ととらえています。

2015/1/10
(土)

am8:40頃の出来事

『わたしの思考は、もしすわらせておくと眠ってしまう。わたしの精神は、もし足がそれを揺り動かさないと進んでいかない。本なしで勉強する人びとは、皆そういったものだ』。モンテニユのお墨付きを背中に、うつぼ公園へまわり道。

冬の朝、犬の散歩とウォーキングの人を歩き交うぐらい。土の道を選び、足先からかかとへふみこむ、東から西、西から東へ回りこみ、御堂筋へむかった。先日みつけた『小さな緒美と猫の図書館』の前を通る。12月にオープンしたという私設図書館。

土曜のオフィス街、今日はなぜかけっこう人が多い。伏見町から地下鉄に乗るつもりで御堂筋を南から北へ歩く。乗り口に近づいた。手前の信号をわたればすぐ。5メートルほど手前、前を向いていても、右手上から鳥が飛んでくるのがわかった。視線と向ける。鳩だった。

目で追ったその瞬間、どんと鈍い音がして、ふらふらと鳩が落ちた。ビルの大きな窓に空が映っている。その向こうへ飛んでいこうとしたのか。2階ぐらいの窓にぶつかった痕が残っていた。アスファルトの歩道が終着点になってしまった鳩。すぐ目の前でこの光景を見ることになった意味は…。

咄嗟にそういう考えが頭にうかんだ。羽は一本ぬけていたが、体は綺麗だった。紅い目を緩くしばたかかせて、身動きできない状況に観念しているようだった。なんとかしたいがなんともしようがない。ふりかえりながら、いったんは信号をわたった。が、“これには意味がある”。

引き返した。そばに人が近づいてきていたが、横たわる鳩に寄った。両手を体に近づけた。手袋をしていたことに気づいた。躊躇なく、そっと体をすくいあげた。ビルの玄関まわりは植垣になっている。下は土だ。角の土面が少し広がった。軽い体を両手で支え、そこに寝かせた。

駅へ向かいながら、かなしみがこみあげてきた。一昨日しみじみと読んだ日経夕刊のプロムナード、批評家の人の書いた『悲しみの秘儀』を思い出しながら、かなしみを自然のものとして、気持ちをおさめた。今日は一つのデスクワークに集中する予定だった。でも、これは書いておこう。

2015/1/13
(火)

私設図書館

予報では晴れのはずだけど、今朝は雲が多い。雨か雪でも降りそうな空。連休明け、ラッシュ前の地下鉄はいつもより人が少ない感じがした。今朝のお天気では、動きも鈍くなるか。

こう寒くては動きも鈍くなる。汗もかきにくい。だからこそ、今のうちに汗をかくようにしなければと、前より少し懸命に柔軟体操をする。歩くようにもする。そうしてたまたま見つけた『小さなお庭と猫の図書館』。

12月にオープンしたばかりで、今のところ週三日だけの開館。先週たまたま空いている日に前を通りかかった。うん？こんなのがあったっけ？と看板を見なした。

「小さなお庭」の文字がなければ、そのまま通り過ぎたかもしれない。でも、何かいい空間の予感。ちょっと迷ったけど、上がってみた。閉館前の時間だから、ちょっと見学だけさせてもらおうと思って。

エレベーターを降りると、本当に小さなお庭が迎えてくれる。その奥ガラス壁と通して館内が見える。茶室もある。和と洋の内装がいいバランス。中には誰もいない。

とりあえず入ってみる。中をしげしげ眺めていたら、外から誰か入ってきた。館長らしい。『よくも上がってきていただきました』。感じのいい女性だ。いろいろ説明してくれた。5階も利用できる。

大阪市内、淀屋橋から歩いてそう遠くない。知る人ぞ知る場所であってほしいと思う。館長もそういう風な人だった。ビルのオーナーでもあるから、自分の思うような場を創ってほしい。今度は利用舎として行こう。



2015/1/15
(木)

研修生

今日は朝から雨。冬にしては強い雨が降った。それが午前10時半ごろ、急にやみ、太陽がのぞいた。そしてまた急に雲がひろがる。今日は一日雨のよう。乾燥続きだったから、それもよし。

「ノック式の万年筆って、ありませんか?」。三番街の大型書店。文具コーナーで別格扱いの万年筆カウンター。胸に「研修生」の名札をつけた背の高い店員さんと目が合い、一瞬“大丈夫かな…”と思いながら、尋ねた。

事務所で書き物をする時は万年筆を使っている。心齋橋そごうの閉店バーゲンで掘り出しものを見つけたのがきっかけだった。はるか昔に使っていた以来。買ったのはウォーターマン。その後、ビースコンティエーのオペラをアウトレットで見つけた。すべりがよくすらすら書ける万年筆。

それをメモにも使いたい。外出先の移動中に思いついたことを書く。力をいれなくても、紙に字がはっきりと写る。紙選びに気をつければ、字のにじみも少ないはず。今どきどこのメーカーでノック式の安いものを作っているのではない。そう思い、一般のペンコーナーで探したが無かった。

「ありますよ、一社だけですけど」と、研修生が即答。すぐにカウンターから商品を出してくれた。へえー、一社だけなんだ。「ノック式の万年筆なんて、こんな精巧なもの、日本以外では作れませんよ」。ノックして出てきた万年筆のペン先は、雀の嘴のようだった。

「今、インクつけますから、ちょっとお待ちください」。研修生とは思えない対応である。「万年筆は、普段から使われているんですか?」。ブルーのインクにペン先をつけ、手渡してくれた。うん、いい書き心地。「僕もこれ持っているんですけど、いいですよ」。えっ、持っているの?

『好きこそものの上手なれ』、お見逸れしました。



2015/1/21
(水)

全席禁煙

今日は曇り空だが、大寒の昨日の朝、陽がかわってきたなあと感じた。光が春めいてきた。冬至から一ヶ月、目にみえて日がのびてきた。昼下がりにグランフロントの庭を通ったら、小さな鳥の音がする。花だけをうまく残して刈られ寒椿、花から花へとちょこまか味見している二羽のメジロの声だった。メジロがお目見えとは、大阪城公園の梅も咲き始めたか。

梅なら京都御所にもある。昨日午後、すぐ側を通りながら時間がなかったのは惜しかった。でもイノダには行った。早めに着いて、昼食をとることにしていた。11時40分ごろ、そろそろ混み合う時間、JR京都駅の地下改札を急ぎ足で通った。すぐ隣の地下鉄改札前をすりぬけ、おみやげ屋さんのコーナーを横切り、イノダコーヒーへ直行した。

拍子抜けするほど席は空いていた。いつも入口付近で立っているウェイターさんと同時に、「お一人さまですか?」、「禁煙席を一人」とひとさし指。すると、「いまは全席禁煙となりました」。そうだったのか、それはよかった。中央の大きなテーブルの端にすわると、「どうぞ広くお使いください」。こういう一言がいえるお店も少なくなった。

「ヘルシー」の文字に誘われ、豆乳の魚介パスタとコーヒーのセットを頼んだ。そしてコーヒーは熱くしないほしい。「では、普通は湯せんするんですけど、それをしないようにいたしましょうか」。そう、ちゃんと話しが通じ、対応する。最近こういう当たり前の流れをつくれぬ人が多い。さすがと感心。考えてみれば、感心するほどのことでもないのだけど。

初めて小売業で働くという知人が、「買ったものとか、メモしておいた方がいいでしょうか」を聞くので、それもいいけど、それ以前の問題として、テキパキ仕事をする姿、状況を見て動く姿を見せてほしいと話したのだった。「おもてなし」もその心が当たり前でなくなったから、今さらながらに「おもてなし」が浮上する所以。人や物事への感心、感度を高めること。

ところでイノダが空いていたのは、全席禁煙になったせい? コーヒーとタバコは相性がいいようだから。

2015/1/26 子と親、親と子
(月)

月曜、お天気は下り坂。FM京都のニュースから北野天満宮初天神の話題。天満宮といえば、梅。昨日出かけた精華町商工会、1階ロビーにも梅が生けてあった。立春も近い。

昨日の帰り、近鉄新祝園から乗る電車は京都線。空席が十分あり、乗り換え駅の大和西大寺まで重いバックを膝に座ってつけた。前の席には左に女性、間をずいぶんあけて、右に男性、その間にいるが3歳ぐらいの女の子。靴を履いたまま、外を見たり、座席に寝かかったり。

この子は誰の子? 右側の女性を見る。黒ぶちの眼鏡をして、長いストレートな黒髪が上品に肩から胸元にかかり、グレーグリーンのコート下の足を正座するようにしっかり閉じ、その前にスーツケースを横に倒してすわっている、40才手前ぐらいの人。この人の子ではなさそう・・・。

右の男性を見る。休日の装い、カジュアルな服装にオシャレ感が出ている。個人でデザイン会社をしているような印象。こちらも黒ぶちの眼鏡をかけ、手にしたスマホに見入っている。ちょっと上げた目を見た。年の頃はこちらも40才ぐらい、世間ずれした目に見えた。

子供は左に寄ったり、右に傾けたり。うーん? まさか、この二人の子ではなからうに。親は別な席にいるのかしら。と思っていた時、「ママー」と小さく声を出しながらドアの方へ近づいた。身動きせずじっと下を向きスマホをしている若い女性。今では見慣れた光景に、見落としていた。

子供が足にまとわりついて、すぐには目を離さない。まっ黄色なスマホを紅くて長いネイルで持ち、しばらくして面倒くさそうに、子供を見下ろす。子供も、たぶんじゃますると叱られるから、無理は言わない。また、席にもどり、退屈そうに寝そべる。

「ちゃんと座ってなよ」。それだけ声をかけ、またスマホに目をやる母親。左の女性は、左端の席が空いた時、そちらへ体を移した。そして、立っている若い母親の方をしばらく見た。何を思っているか、わかる気がした。今は素な3歳の女の子、さて、どんな大人に育つだろうか。



2015/1/29
(木)

身体と環境

予報では日中晴れのはずだった。でもずっと曇り空。昨夜からまた厳しい寒さ。でも、刻々と日は長くなっている。陽射しも春めいてきた。でも、この時期ならまだ大丈夫だろうと太陽を真正面にうけた昨日、夜に目の下が少しふくらみ、今朝起きると顔全体がぼやっと腫れていた。なにごととも油断大敵。

かといって肌を過保護にすると、さらに弱くなるようで、最近では冬の間にもちよくちよく陽射しをうけるようにしている。それも10分以内がよさそう。身体と環境、その相性には昔から気にとめていたように思う。体が何にどう反応するか、何がよさそうで、わるそうか。車の免許をとらない理由にそんなことを話したら、呆れられたこともある。

スマホを使おうという気にならないのもそのひとつ。目が小さな画面に釘付けとなり、1、2本の指先だけが単調にうごくあのしぐさ。この動作自体が思考を幼稚させるのではないか。トイレのジェットタオルも、あの大きな風の音を耳にうけながら、手をその中に差し出す姿は、あまり美しいとはいえない。人間の感度を鈍くさせるのではないか。

そう自分では疑っている。だから今では面倒と思う人も多いかもしれないが、初めていく場所は事前に地図を調べて頭に入れておき、ハンカチを忘れないようにもって出かける。地下鉄中津駅近くでスマホを手にもうろうろしている人を見ると、「段取り」の本が出るような社会のワケを知る思い。その一線からぬけていけるからまださいわい。

